

イメージフォーラム・フェスティバル2023
ギャザリング・クラウド

映像アートの祭典

EXPERIMENTAL FILM / VIDEO

37th

IMAGE FORUM
FESTIVAL

www.imageforumfestival.com

シアター・イメージフォーラム

9/30 [SAT] - 10/6 [FRI]

ゲート・インスティテュート東京

9/30 [SAT] - 10/3 [TUE]

Feb gallery Tokyo

9/30 [SAT] - 10/9 [FRI]

SHIBUYA SKY 渋谷スカイ

10/5 [THU] - 10/8 [SUN]

© 2023 Image Forum Festival

主催 | イメージフォーラム | 共催 | ゲート・インスティテュート東京 | SHIBUYA SKY (渋谷スカイ) | Feb gallery Tokyo
協賛 | 株式会社グアロ出版 | 助成 | 芸術文化振興基金 | 協力 | オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム | 渋谷東急REIホテル | 後援 | ヘルギー大旅館 | スイス大使館

東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション

「東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション」は日本、中国、香港、台湾、韓国の東アジア地域を対象とした公募部門であり、同地域出身または在住の作家による2022年以降に制作された作品を対象としています。本年は400作品の応募があり、一次審査、二次審査を経て東アジアの「今」を映し出す注目作品がノミネートされました。また、本コンペティションは新しい才能を発掘する場であるとともに、ベテランと新進作家が互いに賞を競う場でもあります。最終審査は会期中に行われ、10月6日にシアター・イメージフォーラムで行われる授賞式で入賞6作品と観客賞を発表します。

A 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション1

5作品 | 85分 | 9/30 | 13:00 | 10/5 | 18:30

I stitch my skin to the ground 日本

◎宇佐美奈緒 | デジタル | 22分 | 2023年
ある若い女性を模したキャラクターが、3DCGで構築された世界の中を進んでいく。地下鉄の駅の構内に足を踏み入れると、暗がりから何者かが現れ、主人公の身体を犯す。幾度となく繰り返される悪夢のようなシークエンス。そして主人公は……。作者自らプレイする2つの自作ゲーム画面のキャプチャから、綿密に編み上げられた一編。



B 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション2

5作品 | 80分 | 9/30 | 15:30 | 10/5 | 21:00

並んだLAND 日本

◎ALIMO | デジタル | 8分 | 2023年
作者が見た映画や写真、詩や小説、個人的な記憶からインスパイアされ、制作されたドローイング・アニメーションと、文学作品や街の落書きなどから引用したテキストが交互に配置されることで、観客の中でそれぞれが呼応し即興的に物語を生み出す。エストニアと日本を拠点に活動する作者による、無国籍的な作風が魅力のアニメーションのタブロー。



C 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション3

5作品 | 87分 | 9/30 | 18:30 | 10/5 | 15:30

隧道漫歩 中国 | 日本

◎李澤興 | デジタル | 11分 | 2023年
トンネルをさまよひ歩き進んだ先に現れた扉の前に女性が立っている。「私」の問いかけには曖昧な返答が返ってくるだけだ。「私」は目覚めているのか、まだ夢の中なのか。サイアノタイプを駆使し、青色で描かれた蛇口、水、鳥、昆虫など、帆布に描かれた様々なモチーフが浮かび上がっては消えていく幻想的なアニメーション作品。



2022年10月5日、君は逝ってしまった。台湾 | オランダ

◎ツェン・ユエチン | デジタル | 10分 | 2022年
本作品は映像による弔辞だ。年下のいとこが亡くなった。作者は意中腰にかけ、訥々と語る。母から訃報を聞いてしばらくは呆然としていたこと、亡くなったベットのことで、ドキュメンタリーへの作り方を問われて返答しなかったこと——。ワンショットで撮られた逆光の画面は哀惜に満ち、いつしか何も見えない空間へと昇華していく。



秘密を教えてあげる 中国 | アメリカ

◎ジャウ・エンピン | デジタル | 5分 | 2022年
森の中。木に吊るされたいくつもの円盤形の鏡が揺れ動き、回転している。そこに書かれた韓国語と中国語の文字。地に影をつくり、そこに置かれた鏡もまた森を映す。そして、二人の人物は互いの掌に指で文字を書き、唇に鏡を当て囁き合い、互いの唇の動きを映し出す。言語の壁を密やかに乗り越えようとするかのようである。



虫が土の中から出てくる時、人間になる 台湾

◎ルウ・エンチョン | デジタル | 24分 | 2022年
2021年秋。世界では新型コロナウイルスが蔓延する中、台北の南東、テロの犠牲者が眠る六張犁の墓地には静けさが広がっている。墓を掘る男、頭の無い鶏、三つ足の犬——。モノローグを背景に現れるこれらは夢か現か幻か？ 画面越しに静寂が伝播するようなモノクロームの映像が語る、繁栄の歴史に隠された生命の物語。



The Stream XII-II 日本

◎櫻井宏哉 | デジタル | 5分 | 2022年
水流に踊るようになびく藻、ダイナミックに湧き起こる雲、風に揺れる広大な草原——。季節は移ろい、枯れた草を多くの人たちが燃やしていく。風に煽られた煙と炎が立ち昇る草原は壮観だ。水路撮影やドローン空撮などによって、自然の躍動感と美しさを凝縮した本作品は、作者が2011年から始めたシリーズの最新作。



ナハトムジーク 日本

◎菅田千尋 | デジタル | 22分 | 2023年
下から上へゆっくりとスクロールし続ける黒の画面上に、星のように輝く白い波形。虫や鳥の鳴き声のよう聞こえる音は、すべてその波形から発せられる電子音だ。やがて波形は具象的な像へと変容し……。音の周波数を視覚化するスペクトログラムと呼ばれる技術を援用した自作プログラムによって、「夜の音楽」を生みだせる果敢な試み。



よだか 中国 | 日本

◎王俊捷 | デジタル | 9分 | 2022年
宮沢賢治の「よだかの星」を原作としたドローイング・アニメーション。木の枝が「よだか」にメタモルフォーゼする冒険は印象的だ。よだかは醜く、他の鳥からは嫌われ、鷹からは改名を迫られる——。原作のエピソードを丁寧に映像化する一方、原作にはないセリフも加え、作者独自の哀愁に満ちた「よだか」を造形している。



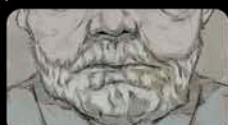
告白夢 中国 | 日本

◎施聖雪 | デジタル | 4分 | 2022年
「乳房の中に何かが生え、いつもかすかに痛みを感じている——」。検査をすると乳腺増殖症だった。まるで乳房の中で「石」が増殖するような痛み。本作品は、作者がこれまで苦しいで来た女性としてのエピソードを5章に分けて「告白」する淡いタッチの手描きアニメーション。なぜ女性の身体は出産を運命づけられているのか？



STRAW 中国 | 日本

◎劉明承 | デジタル | 8分 | 2022年
カウンターの前には緞帳がついた小さな舞台がある風変わりなレストラン。ヒゲもじやの男はストローで飲み物を飲んでいる。メニューを手に取り、開くと中には時計のような円盤が入っていて、男はその針を回す——。いつしかストローは長くなり、さらには筒のような太さになる。太くなったストローで何を飲み干そうというのか？



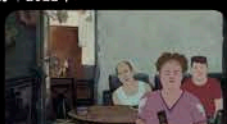
眼球の人 日本

◎村岡由梨 | デジタル | 12分 | 2023年
電車に座るバイオリンを持ったセーラー服姿の「私」。向かいに座った男が、両脚を少しずつ広げた「私」の股の間を凝視する。すると股の奥に「向日葵の花」が咲くようになった——。同タイトルの作者自身の詩があり、その言葉が全編を紡ぐ。ランゲの「花の歌」の調に乗って、花を咲かせていく向日葵のシーンは感動的だ。



何も変わらない 中国

◎シュ・ジンウェイ | デジタル | 44分 | 2022年
音楽大学を卒業後、就職に失敗した主人公は故郷に帰り、悶々とした日々を送っている。彼は大型管楽器・スーザフォンを抱えて家を出るが……。町も主役を演じているかのように精緻に描かれた背景が目まぐるしく、不穏な空気の流れる夢のような風景の中で、大きな楽器と共に退屈な日常を送る青年の姿に人生の不条理が投影される。



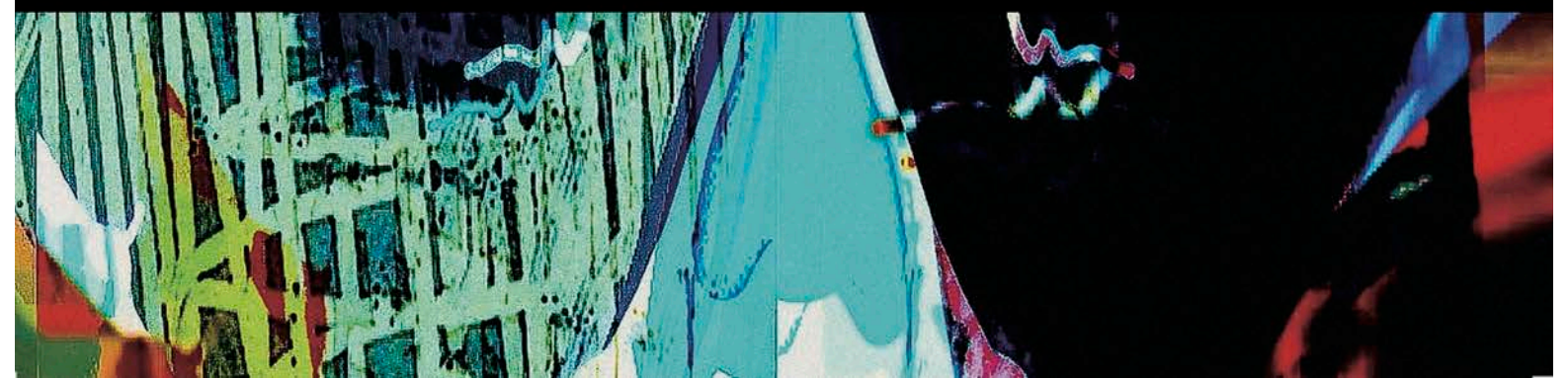
九龍東部の昔話 中国 | オランダ

◎ポー・ワン | デジタル | 37分 | 2023年
冒頭で歴史に翻弄されたヒット曲「何日君再来」と髪毛についての怪談話が語られる。戦後アジアの工業発展に大きな役割を果たした「かつら」に着目したユニークなドキュメンタリーだ。毛髪供給国であった中国との窓口である香港を舞台に、米国による「共産主義者の毛髪」禁輸の経緯など、冷戦下の隠された歴史が姿を現す。



ザ・シューターズ 韓国

◎ヤン・ジファン | デジタル | 31分 | 2022年
1948年に起きた「済州島4・3事件」。国による島民虐殺事件だった。作者は祖父が被害者だったことを知り、カメラを持って祖父の元に通う。酒を飲み、つまみを食べ、少しづつ祖父は身に起きたことを語り始める。父親の遺体と別れ、洞窟に身を潜めた16歳の祖父。そして、自身が討伐隊にも加わったことを話し始めるのだ——。



最終審査員



遠藤麻衣子
映画監督 | アーティスト

保坂健二郎
福賀県立美術館ディレクター | 哲学者

マーク・トスカノ
キュレーター | 映画保存家
アカデミー・フィルム・アーカイブ

D 東アジア・エクスプレメンタル・コンペティション 4

5作品 | 85分 | IF 10/1 | 13:00 | IF 10/4 | 15:30

私は馬である 韓国

●イム・チェリン | デジタル | 8分 | 2022年
胎夢(テモン)——韓国では妊娠の兆候、生まれてくる赤ん坊の性別や性格、将来の運命などを暗示する予知夢のことをこう言う。作者の母が見た自分と双子の妹の胎夢は野性の馬だった。本作品はその胎夢にインスパイアされたドローイング・アニメーション。想像力豊かに活写された太い墨の筆致が力強く乱舞する。



明るい音A 韓国 | アメリカ

●ヨウン・キム | デジタル | 17分 | 2022年
ある浜辺にピアノが流れ着く。ロープがくくりつけられたピアノは調律を施すために険しい山道を越え作業場へと運ばれて行く。20世紀初頭に韓国に持ち込まれたピアノの搬入過程を映像で再現。ピアノの調律のピッチ[A]の周波数440Hzが現代の多くの楽器の調律に使われるようになったその歴史をモノログにより紐解く。



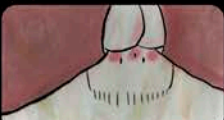
Who owns the story? 日本 | ドイツ

●国本隆史 | デジタル | 30分 | 2023年
作者が移住先のドイツで出会ったポーランド人男性ロベルトは路上で生活している。作者は何度も足を運び交流を深めるが、やがてロベルトはどこかへと姿を消してしまう。作者とロベルト、そして映画を観る観客の「居場所」についての示唆に富んだ日記映画的ドキュメンタリー。IFF2019で上映された「ロベルト」の続編。



ゾウのかたち 中国 | 日本

●クワ・ウケン | デジタル | 8分 | 2023年
ある日突如として少年の家に住み着いた象。しかし大人にはその姿は見えないようだ。思春期の子どもの「性」に対する感情の変化と、それを見て見ぬ振りをする大人とのディスコミュニケーションを4つのエピソードで構成したドローイング・アニメーション。ことわざ「部屋の中の象」をモチーフにカラフルかつポップに展開する。



暁映 日本

●芝田日葉 | デジタル | 22分 | 2023年
一日中自ら光を放っているが、日没後になって初めてその光を見ることができると言うヤコウタケ。作者は、その生誕から暗闇の中でしか現れない「映画」に思いを馳せ、明かりのない森の中で、薄暗くなった暮れから深夜にかけて「光」の探集を試みる——。照明を抑えた丹念で静謐な画作りを通して、「映画とは何か」を問う。

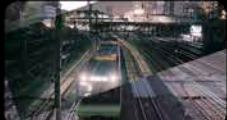


G 東アジア・エクスプレメンタル・コンペティション 7

1作品 [インスタレーション] | IF 9/30/10/1 | 12:30~20:00

LETHE 日本

●五島一浩 | デジタル | 21分 | 2023年
視覚や映像の原理を応用した作品を手掛ける五島一浩による3D映画作品の新作。彼の3D作品は現実の再現や誇張にとどまらず、現実には体験できない映像効果を生み出すのが刺激的だが、本作も右眼で夜、左眼で昼を見るという大胆な発想で制作されている。時間のスレを立体的にするという新たな3D表現が新鮮な驚きをもたらす。
* 入場無料



E 東アジア・エクスプレメンタル・コンペティション 5

5作品 | 79分 | IF 10/1 | 15:30 | IF 10/4 | 18:30

異郷 中国 | 日本

●陳爽 | デジタル | 10分 | 2022年
モンゴルの草原に建つゲルの中で民族衣装を身に纏った少女は母に言う。「明日、お父さんを捜しに日本に行く」。少女は父親に会ったことがなかった。恐山に行き、そこで謎の女に尋ねられるように父親に会う。父親は縄で縛られた柱時計を抱え、学生服姿であった——。これは夢なのか？ 寺山修司の表象が散りばめられた異色作。



Sewing Love 中国 | 日本

●許願 | デジタル | 9分 | 2023年
ある孤独な男のもとに、ある女が偶然に逃げ込んでくる。二人は運命的な出会いを果たし、愛を育んでいくのだが……。自己愛や独占欲といった愛のしがらみにまつわる物語が、具象性と抽象性を自由に行き来するドローイング・アニメーションならではの表現によって、ノンストップで展開される。新進作家による力強い意欲作。



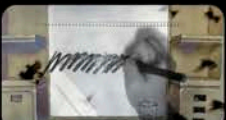
デリバリー・ダンサーズ・スフィア 韓国

●アヨン・キム | デジタル | 26分 | 2023年
主人公は宅配サービス「デリバリー・ダンサー」の配達人。彼女は毎日、ネオン瞬く近未来のソウルをバイクで疾走する。迷宮のような街の中、もう一人の自分と出会った彼女のアイデンティティは次第に崩れていく——。多様なデジタル表現を用いビジュアル・アーティストとしても活動する作者による、視覚的刺激に富んだ最新作。



mom is どこ 日本

●竹原結 | デジタル | 5分 | 2022年
実写とアニメーションの合成作品。落下するイメージや車の前進ショットなどが実写で描写され、そこに赤ん坊や子どもの姿などが手描きの線画で重ねられる。ユニットバスでシャワーを浴びる、その排水口から覗く謎の目——。意表をつくショットが、赤ん坊を抱いた母のイメージに向けて、目にも止まらぬ速さで展開される。



スピリアルート 日本 | ベルギー

●リサ・スピリアルート | デジタル | 29分 | 2023年
ベルギーの象徴主義画家、レオン・スピリアルート(1881-1946)。自分がアーティストになったのはその血脈のせいなのか？「N・P」のリサ・スピリアルートが、古い家系図を掘りかえし、美術史家との面談やDNA鑑定を駆使して画家と自分の関係を解き明かす。ヒップホップのリズムに乗せてラップで物語るメタ=セルフ・ミュージカル・ドキュメンタリー。



大賞 / 1点 賞金30万円 + 賞状

寺山修司賞 / 1点 賞金10万円 + 賞状

SHIBUYA SKY賞 / 1点 賞金10万円 + 賞状

優秀賞 / 3点 賞金3万円 + 賞状

観客賞 / 1点 賞状

F 東アジア・エクスプレメンタル・コンペティション 6

6作品 | 79分 | IF 10/1 | 18:30 | IF 10/4 | 21:00

ゆらめくグラフィート 台湾 | アメリカ

●シャーリン・シンシン・リュウ | デジタル | 13分 | 2022年
「母さん、僕のこと憶えてる?」。優しい口調で、何度も繰り返される質問。母からの返答ははっきりしない。母親の薄れつつある記憶に呼応するように、白黒の16ミリフィルムで撮影された開田の山々や河の風景は、多重露光やフォーカスアウトで滲んでいる。替え難い、失われていく瞬間を、愛おむカメラで捉えたポートレート。



ABITA 日本

●nalice(奥野美和 + 藤代洋平) | デジタル | 20分 | 2022年
ゴミが浮かぶ川面から一転、居間が映し出される。襖が開き、女が布団から起き上がる。そしてまた一転。広い空室で女が椅子を床に押し付けるようにギーギーと押す。日常と非日常のカットバック。やがて舞台は広い空室に——。ドラム缶やバスタブなどのモノとダンサーがないまぜになって展開する実験的身体表現作品。



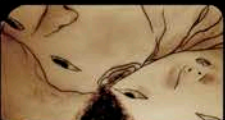
ザ・パーフェクト・ヒューマン 中国 | アメリカ

●リラン・ヤン | デジタル | 13分 | 2023年
ヨルゲン・レスの「The Perfect Human」(1967)は、擬似科学映画的手法を使い「Perfect Human = 完璧な人間」とは何か? という哲学的問いを投げかける13分のカルト映画。その映画のフッターを機械学習で読み込み、さらにアナログ印刷技術で出力することで、本作品は印刷メディアからAIの時代をつなぐ「完璧な人間」のアーキタイプを彫り出そうとする。



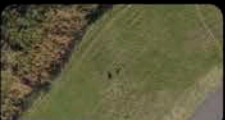
fur 中国 | アメリカ

●ゼン・リ | デジタル | 7分 | 2022年
片思いの感情表現なのだろうか。教室の前の席に座る男子に向けて後ろに座る女子が指を這わせる。男子が振り向くと、サツと手を引っ込める女子。意から身を乗り出して男子と並んで月を見ていて、月からは細い糸のようなものが落ちてくる——。心的情景が次々と展開される手描きアニメーションだが、実写シーンにも注目!



ライカワアツ 日本

●能瀬大助 | デジタル | 2分 | 2023年
穏やかな陽光が降り注ぐ芝生の上で、ひとり黙々とベースの練習をしている人物。とぼけたベースの音階とともに聞こえてくるのは、彼を取り囲む自然音だ。タイトルは「Like A Work」という言葉の発声カタカナ表記したもの。90年代末から個人制作による映像作品を手掛けてきた映像作家・能瀬大助による、2023年の軽やかな新作。



とおぼえ 日本

●川添彩 | デジタル | 24分 | 2022年
弟の死に顔に自分自身の死を感じた主人公は、自己の存在の不確かさへと思いを深めていく。IFF2011で大賞を受賞した川添彩の最新作で、内田百閒の短編小説「とおぼえ」と「冥途」から着想している。記憶と現実を行き来するように進む物語とフィルム撮影の光のゆらめきの中に生と死のあわいを表出しようとした野心作。



実験的・パノラマ

H ギャザリングクラウド

ARTS COUNCIL TOKYO
フィルム・イン・シネマター2023

助成—公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京(東京都芸術文化創造発信局)

H1 ミャンマー 〈アンダーグラウンドから洩れる光〉

6作品 | 108分
キュレーション モー・ミエメイザチ [3-ACT]

クーデター後の戒厳令の外出制限下、ミャンマーのZ世代がアンダーグラウンドで個人映画の潮流を生み出そうとしている。ミャンマーから生まれる新しい映像を紹介。

2022年、ミャンマーと日本でオンラインの映画制作ワークショップが行われた。外出が制限され、人が集まることが難しいミャンマーでいかに映画を続けるか。生まれた映画はまごうことなき「アンダーグラウンド映画」。モー・ミエメイザチの「供物」がドイツのオーバーハウゼン短編映画祭で上映されるなど、世界的にも注目され始めている。



ハロー・ワールド!

- ハロー、ワールド! [タンシトゥーパー | デジタル | 13分 | 2022 | ミャンマー]
- 口がきけない [ワイナーニユント | デジタル | 28分 | 2022 | ミャンマー / スウェーデン]
- 供物 [モー・ミエメイザチ | デジタル | 10分 | 2022 | ミャンマー]
- 館 [リンテットアウン | デジタル | 35分 | 2022 | ミャンマー]
- ライト・マター [ググ | デジタル | 15分 | 2022 | ミャンマー]
- 心の風景 [サイコンカム | 7分 | 2022 | ミャンマー]

H4 映画はどこで(も)作られる? ——危機的状況における映画制作

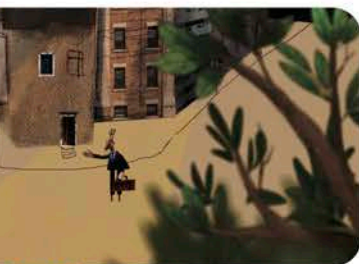
●シンポジウム ●90分(予定) ●GI 10/2 | 15:30

ゲスト モー・ミエメイザチ [3-ACT | ミャンマー] + ウラジミール・ナデイン [映像作家 / キュレーター | ロシア] + ムガボ・バリテゲラ [映像作家 | コンゴ]
 司会者 清恵子 [キュレーター | 著述家]
 会場 ゲート・インスティテュート東京
 *入場無料。ただし、IFF2023のいずれかの上映プログラムのチケットもしくは半券、あるいはIFF2023公式カタログをご提示ください。

I1 香港映像事情——1 高い城からの物語

8作品 | 77分
キュレーション イップ・ユック・ユー

香港在住のアーティストたちの日常から、現在の街の社会地理的な風景・状況を映し出す最新の短編映像集。技法は多様だが、どの作品も日記的なアプローチによる一人称的視点を用い、急激に変容する土地に対しての証言者となる。ある場所の鮮烈なポートレートを通して、ありえなかつたかもしれない今を夢想する、香港の最新作品をまとめた映像アンソロジー。



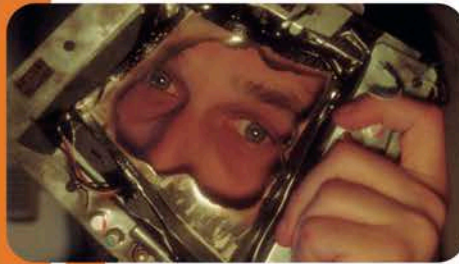
風変わりな息子

- 石硤尾公園の眺め [タマシュ・ヴァリツキー | デジタル | 3分 | 2016-2021 | 香港]
- 食物とのセルフポートレート [タマシュ・ヴァリツキー | デジタル | 3分 | 2022 | 香港]
- 私の体が動くのを想像しながら [エリサ・ウェンディ | デジタル | 30分 | 2021-2022 | 香港]
- シグナル8 [サイモン・リユー | デジタル | 14分 | 2019 | 香港]

- 君は私の心に家を建てた [リー・ユック・フローレンス | デジタル | 5分 | 2023 | 香港]
- うちのバス停は海に通じている [タイ・ロック・イー | デジタル | 6分 | 2023 | 香港]
- TWENTYTHREE [マックス・ハトラー | デジタル | 7分 | 2023 | 香港]
- 親愛なる息子 [リアン・フー | デジタル | 9分 | 2022 | 香港]

H2 ロシア 〈祖国との対峙〉

3作品 | 81分
キュレーション ウラジミール・ナデイン



DVA

若者の心情を虚飾なく捉えたホームムービーの作品「スティル・フリー」、災害の予感の中で生きる人々をディストピアSFのスタイルで描き、ロシアの不条理な政治状況を反映させた「DVA」を上映。

- 文化なくして国家なし [ウラドレナ・サンドゥ | デジタル | 17分 | 2022 | オランダ + ロシア]
- スティル・フリー [ヴァディム・コストロフ | デジタル | 31分 | 2023 | ロシア]
- DVA [アレクサンドラ・カレリナ | デジタル | 33分 | 2022 | ロシア]

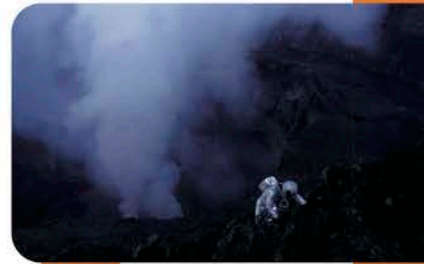
2022年2月のウクライナ戦争勃発以降、制作と発表の自由を求めて国外に出たロシアの映画作家を特集。彼らの視点で見つめた祖国・ロシアとは。ウクライナ侵攻から1年半が過ぎた。戦争に反対し、国外へ出たロシアの映像作家はロシアの現在をどのように描くのか。ブーチンやカディロフの肖像にあふれるチェチェンの街頭をカメラに収めた「文化なくして国家なし」、兵役を目前に控えた

H3 コンゴ 〈コンゴ・ササ〉

3作品 | 74分
キュレーション リオ・ネルキ

長年紛争の舞台となっているコンゴ民主共和国東部の都市ゴマ。クリシェを乗り越えアフリカのイメージを刷新する鮮烈な実験的映像作品を紹介する。

ニリヤコンゴ火山噴火後の荒地に降り立つ「異人」を主人公に、アフロ・フューチャリズムの想像力でコンゴ社会を描きロカル映画祭で受賞した「光明を与える」。環境破壊、軍事的脅威、その中で育った子供たちが強烈にぶつかり合うモンターージュ「ここ」。混沌としたゴマの街角を夢遊病的なカメラで活写し、そこにNGOや国際協力組織という「新しい植民地主義」への問いかけの意識が流れ込む「ムワナ・ボ」。バワフルな3作品。



光明を与える

- 光明を与える [マイシャ・マエネ | デジタル | 14分 | 2022 | コンゴ]
- ここ [マイシャ・マエネ + リオ・ネルキ | デジタル | 3分 | 2021 | コンゴ]
- ムワナ・ボ [ムガボ・バリテゲラ | デジタル | 57分 | 2019 | コンゴ]

I2 香港映像事情——2 プラスチックなランドスケープ、墮ちた空

6作品 | 86分
IF 10/3 | 13:00

風景を媒体とするマルチメディア・アーティスト、イップ・ユック・ユーの映像集。イップ・ユック・ユー作品における中心的なテーマは風景である。観察、記録、流用、様々な空間におけるパフォーマンスを通じ、風景をメタファー、ドラマ、洞察、証言の媒介とする。作者の20年にわたる創作活動からのセレクション。



革命前のノート

- 九龍における再び憂鬱な1日 [デジタル | 15分 | 2012 | 香港]
- プラスチック・ガーデン [デジタル | 11分 | 2013 | 香港]
- 雲は墮ちる [デジタル | 28分 | 2014 | 香港]
- パニクルーム [デジタル | 6分 | 2011 | 香港]
- 革命前のノート [16ミリ | 15分 | 1998 | 香港]
- 長い目で見れば [デジタル | 11分 | 2023 | 香港]

*すべてイップ・ユック・ユー作品

I3 東アジアにおける 実験的・フィルムのマッピング

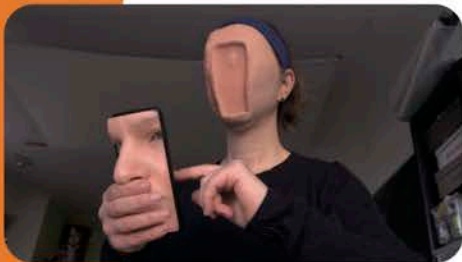
●シンポジウム ●90分(予定) ●IF 3F 10/3 | 15:30

日々変容していく映像の上映・展示の形。コロナパンデミック・政治的気候の変化などを受けた東アジアの映像の環境について、加えてこれから東アジア間のネットワークングについて模索する。

ゲスト イップ・ユック・ユー [アーティスト | 香港] + ケイティ・ファン [映画プログラマー | 香港] 他
 司会者 山下宏洋 [イメージフォーラム・フェスティバルディレクター]
 会場 イメージフォーラム3階「香山修司」
 *入場無料。ただし、IFF2023のいずれかの上映プログラムのチケットもしくは半券、あるいはIFF2023公式カタログをご提示ください。

J 日常の驚異——1 シングス&ワンダース ——アンナ・ファゾフ作品上映とワークショップ

1作品 | 60分 IF 10/2 | 21:00 IF 10/6 | 16:30



会場 オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム

○シングス&ワンダース[アンナ・ファゾフ | デジタル | 60分 | 2016-2022 | オーストリア]

日用品の誤用……。レディメイドをミスメイク。驚きと笑いのアンナ・ファゾフ短編映画集。日々の生活の身の回りにある品々には、実はウィットが潜んでいる……。オーストリアの建築家/メディアアーティストのアンナ・ファゾフは、日用品をあえて誤用し、あふれる機知を通し、一方で、アニメーションの原理を利用するなどして世界の別の見方を提示する。40本の超短編映画のアンソロジー。

ワークショップ シングス&ワンダース

GI 10/3 | 11:00-19:00

ハイ・アートとしての日用品。日用品の用途、限界、形はいかなる物語を生むのか。見慣れた日々の風景を全く別の視点で見つめ、日常がいかにアーティスト的な表現の源であるか、私たちの身の回りが、終わらない思考・インスピレーション・芸術的な実験の場になりうるかを探索するワークショップ。

「何をやるか?」参加者はテーブルに載せられた日用品をピックアップし、以下のキーワードに沿ってアクションをする。そしてそれを短編映画として記録する。以下は物体に芸術的な意味を与えるアクションのリスト——。

- 変容させる ○混ぜ合わせる ○再創造する(別のスケールで、別の素材で)
- 誤用する ○再配置する ○アニメートする

*撮影・編集用にカメラ、三脚、ノートPCがあれば持参してください。スマートフォンをお持ちください。

※開演 10月3日(火)11:00-19:00[当日10:30より受付いたします]

会場 ゲーテ・インスティテュート東京

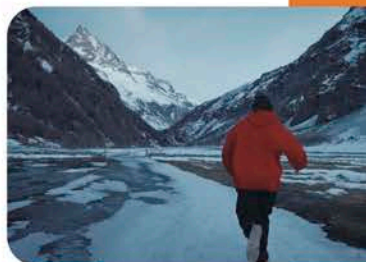
参加費 3,000円(10/2の「シングス&ワンダース」の上映をご覧の上でご参加いただくことをお勧めします。半券ご提示の方は2,000円)[ワークショップは英語で行われますが、日本語通訳が付きま]

K 日常の驚異——2

3作品 | 60分 IF 10/2 | 15:30 IF 10/6 | 21:00

隣人・日常品など身の回りを映像トリックで異化。驚きの視覚体験の傑作3本。

地球温暖化による氷河溶解の最前線、スイス・アルプスの村にパラシュートで降り立った男。男がその危機的な状況に意外な方法で対峙するドキュメンタリー「落ちていく」。部屋を埋めるオブジェから見えぬ力を引き出し運動させるアニメーション「飛行停止」。ソマリア難民の隣人アブディの半生を、彼の工房内に作ったミニチュアジオラマで再現するドキュアニメ「隣人アブディ」。各地の映画祭で話題の最新映像集。



落ちていく

- 落ちていく[セバスチャン・スヒャーヴェルス | デジタル | 23分 | 2022 | ベルギー+スイス]
- 飛行停止[エイドリアン・フルーリー | デジタル | 8分 | 2021 | スイス]
- 隣人アブディ[ドゥエ・ダイストラ | デジタル | 29分 | 2022 | オランダ]

日本実験映画データベースプロジェクト

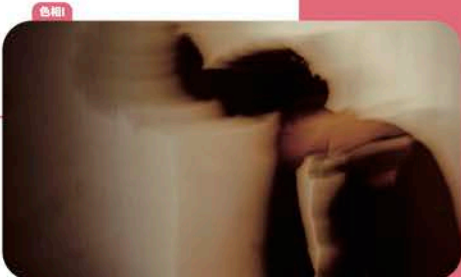
L パトリス・キルシュオフェール ——動きの言語学

6作品 | 61分 IF 9/30 | 21:00 IF 10/3 | 15:30

フランス実験映画において最も謎めいた作家パトリス・キルシュオフェール(1953-2019)を日本初特集。

「映画監督、ミュージシャン、画家、作家、ミーティングのオーガナイザー」を自称したキルシュオフェールは、言語学・構造主義に影響を受け、映画の運動的側面と原初的体験を追求した。日本では未紹介のフランス実験映画70年代の代表的人物を特集したプログラム。

“断片的な動きの凍結、原子の輝きの色、光に攻撃されているような人物、恐ろしい音楽、世界の終わりの予感、こうしたものを全てが「色相」をフランス前衛映画における最も強力な1本にしている”——ドミニク・ノゲース(作家)



色相I

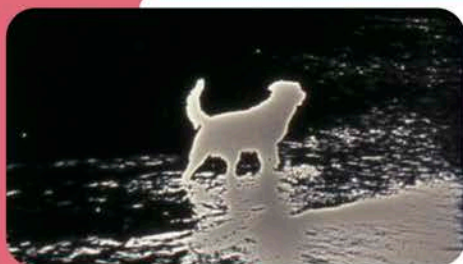
- 視覚温度I[16ミリ(デジタル版) | 23分 | 1977]
- 色相I[16ミリ(デジタル版) | 11分 | 1977]
- 感度測定I[16ミリ(デジタル版) | 3分 | 1973]
- 感度測定III[16ミリ(デジタル版) | 12分 | 1975]
- 感度測定VII[16ミリ(デジタル版) | 6分 | 1976]
- 拒食症IV[16ミリ(デジタル版) | 6分 | 1979]

*すべてパトリス・キルシュオフェール作品

M1 驚愕のフレーム ——アカデミー・フィルム・アーカイブ16ミリレストレーション

10作品 | 87分 IF 10/3 | 21:00 IF 10/5 | 13:00

キュレーション マーク・トスカノ



ウォーターフォール

アカデミー・フィルム・アーカイブによって修復された、アメリカ西海岸70年代を代表する実験映画セレクション。

毎年受賞作が話題となるアカデミー賞を主催するアメリカの映画芸術科学アカデミーは、映画の保存・修復も行っている。その範囲はいわゆるメジャー映画や商業映画だけではなく、アヴァンギャルド映画にも及ぶ。特に力を入れているのが地元・ロサンゼルス近郊の作家たちの作品。その中から日本初紹介の作家を含む70~80年代珠玉のプログラムを上映。

- ウォーターフォール[チック・ストランド | 16ミリ | 3分 | 1968 | アメリカ]
- ローズブラッド[シャーロン・カズン | 16ミリ | 7分 | 1974 | アメリカ]
- バサディナ・フリーウェイ・スティルズ[ゲリー・ペイルダー | 16ミリ | 6分 | 1974 | アメリカ]
- ブレイス・マッツ[バーバラ・ハマー | 16ミリ | 8分 | 1987 | アメリカ]
- 原初の刺激[ロバート・ラセット | 16ミリ | 8分 | 1977(1980) | アメリカ]
- アナロジーズ[ピーター・ローズ | 16ミリ | 14分 | 1977 | アメリカ]
- トウェルブ(最初の3パート…) [ベス・ブロック | 16ミリ | 9分 | 1977 | アメリカ]
- パノラマ[マイケル・ルドニック | 16ミリ | 12分 | 1982 | アメリカ]
- ルース・コーナー[アンタ・サッチャー | 16ミリ | 10分 | 1986 | アメリカ]
- 脈動[フレッド・ウォーデン | 16ミリ | 7分 | 1972 | アメリカ]
- “Yes, I said Yes, I Will, Yes” [フィル・ソロモン | 16ミリ | 3分 | 1999 | アメリカ]

M2 イメージにトラブルあり——実験映画を保存する? マーク・トスカノによるワークショップ

ワークショップ 90分(予定) IF 10/2 | 18:30

個人映画・アヴァンギャルド映画を保存する際の困難さとは? 作家がフィルムに直接ペイントしたり、切り貼りしたりした作品の修復はどのように? スタン・ブラッケー、バット・オニール、スーザン・ビットラアメリカを代表するアーティストたちの映画作品を修復してきた映画芸術科学アカデミーのマーク・トスカノが、実際の作品を見せながらその仕事を紹介する。

N マイケル・スノウ追悼 『セントラル・リージョン(中央地帯)』

1作品 | 180分 IF 10/6 | 13:00

“私はプロフェッショナルではない。私の絵は映画作家が描いたものであり、彫刻はミュージシャンによるもの。映画は画家によるもので、音楽は映画作家により、絵は彫刻家により、彫刻は映画作家により、映画はミュージシャンにより、音楽は彫刻家によるものである”——マイケル・スノウ
「構造映画」の代表的存在とされ、映画の超ミニマリスト的アプローチで知られるが、内容は実に遊戯的でユーモアに富むマイケル・スノウの作品群。その代表作の一本として映画史に名を轟かせる「セントラル・リージョン(中央地帯)」を、今年1月6日に亡くなったマイケル・スノウを追悼し、上映する。



- セントラル・リージョン(中央地帯)[マイケル・スノウ | 16ミリ | 180分 | 1977 | カナダ]

O1 1ダースの宝 —フィンランドの映像アーカイブAV-Arkki

12作品 | 72分 IF 10/3 | 18:30
キュレーション トウッティ・ランタネン

実験映画・ビデオアートを跨ぐアーカイブとして1989年にヘルシンキに設立された組織AV-Arkki。60年代から現在に至る、フィルムとビデオアート、デジタル作品をつなぐフィンランド実験映像の代表的作品をセレクト。



マサ

- (ディズ)インテグレーター[ユハ・ヴァン・インゲル | デジタル | 4分 | 1992 | フィンランド]
- Kiila:燃える大地[ミカ・ターニラ | デジタル | 7分 | 2002 | フィンランド]
- フローラとファウナ[エルッキ・クッセンニエミ | 16ミリ(デジタル版) | 6分 | 1965 | フィンランド]
- キネティック・ピクチャーズ[エイノ・ルーツロ | 16ミリ(デジタル版) | 5分 | 1962 | フィンランド]
- ヘアバンド[メルヴィン・キュッセルミューブフル | デジタル | 4分 | 1982 | ドイツ]
- 洗濯仕事[アンネリ・ニューイグレン | デジタル | 3分 | 1992 | フィンランド]
- ミレーナの旗[マリッキ・ハコラ | デジタル | 5分 | 1989 | フィンランド]
- ダイブ・イン[ローザ・リクソン | 16ミリ(デジタル版) | 6分 | 1990 | フィンランド]
- マサ[アンシ・カシトニ | 16ミリ(デジタル版) | 11分 | 2009 | フィンランド]
- フィンランド的寓話2011[ニイナ・オミネン | デジタル | 6分 | 2011 | フィンランド]
- ラッソー[サッラ・テュウケ | デジタル | 4分 | 2000 | フィンランド]
- 大地の島たち[マルヤ・ヘランデル | デジタル | 11分 | 2018 | フィンランド]

O2 実験映画の保存と活用 フィンランドとフランス

シンポジウム 90分(予定) IF 3F 10/5 | 18:00

- ゲスト トウッティ・ランタネン[AV-ARKKI | フィンランド] + エマニユエル・ルフラン[ライトコーン | フランス]
- 司会 門脇健路[イメージフォーラム・フェスティバル ディレクター]
- 会場 イメージフォーラム3階「寺山修司」
- * 入場無料。ただし、IFF2023のいずれかの上映プログラムのチケットもしくは半券、あるいはIFF2023公式カタログをご提示ください。

P フィルムメーカーズ・イン・フォーカス 映画する人——ミスター実験映画・奥山順市レトロスペクティブ2023

1964年制作の「MU」を皮切りに、実験映画ひとすじに60年！
 フィルムや映画の構造そのものをテーマに作品を作り続けてきた奥山順市のパフォーマンス、展示も含む大特集。
 * 作者の都合により内容に変更が生じる場合があります。

P1 初期作品と映画解体計画

8作品 | 70分 IF 10/1 | 21:00

最初期の作品「MU」と「BANG VOYAGE」の他、奥山が作風を確立した「映画解体計画」の作品を上映。写真ネガを上映してしまう「Frameless35」、フィルムが切れる上映中の事故をライブとして作品化した「切断」(収録版で上映)、映写機の中でフィルムを溶かしながら上映する「No Perforations」(収録版で上映)など、フィルム上映のタブーやアクシデントを作品化し、奥山順市の存在を世に知らしめた作品群だ。

- MU[16ミリ版(オリジナルはダブル・エイト) | 3分 | 1964]
- BANG VOYAGE[16ミリ | 18分 | 1967]
- Frameless35[16ミリ版 | 3分 | 1968]
- 切断(収録版)[16ミリ | 15分 | 1969]
- Outrage(手ごめ)[16ミリ | 3分 | 1970]
- No Perforations(収録版)[16ミリ | 10分 | 1971]
- Frameless 16[16ミリ版 | 3分 | 1971]
- 紙映画(収録版)[16ミリ | 15分 | 1972]



切断

P2 映画組成計画——1

10作品 | 約80分 IF 10/4 | 13:00

「映画解体計画」の後やってきたスランプの後に完成させ、「映画組成計画」のスタートであるとともに、奥山の代表作となった「Le Cinéma(映画)」、映像がダイレクトに音を発する「我が映画旋律」、カメラを使わずに現像処理のみで制作された「浸透画」などの代表作に加え、新作パフォーマンスも交えたプログラム。70年代以降久しぶりの再映となる伝説的な「5mmフィルム」は必見！

- Le Cinéma(映画)[16ミリ | 5分 | 1975]
- 我が映画旋律[35ミリ | 7分 | 1980]
- MOVIE WATCHING[16ミリ | 12分 | 1982]
- 写真を刻む[16ミリ | 6分 | 1983]
- 映画する人[16ミリ | 10分 | 1986~87]
- 浸透画[16ミリ | 9分 | 1994]
- ストップ・モーション[16ミリ | 10分 | 1995]
- INGAの世界[16ミリ | 11分 | 1996]
- 私家版・歩く人[16ミリ | 1分 | 2023] * 手回し映写機によるライブ・パフォーマンス
- 5mmフィルム(2023年度復刻版)[16ミリ | 3分 | 1975~2023] * 手回し映写機によるライブ・パフォーマンス



私家版・歩く人

P3 映画組成計画——2

9作品 | 約70分 IF 10/6 | 18:30

ループさせたフィルムを超多露光する「時の流れに乗せて」、フィルムにおける映像と音の構造的なズレをテーマにした「Sync pic あっ！ 面を見てから音が聞こえる」、ダブル・エイトのフィルムを2本編集して16ミリへと回帰させる「W8は16ミリ」、現像の薬品をフィルムに直接ペイントした「まぜるな」など、映画の構造への探求はさらに広がりを見せる。

- タイムスリット[16ミリ | 6分 | 1989]
- フィルム三昧[ビデオ | 7分 | 1992]
- 時の流れに乗せて[16ミリ | 7分 | 1997]
- Sync pic あっ！ 面を見てから音が聞こえる[16ミリ | 14分 | 2001]
- 未現ゾーン[35ミリ | 5分 | 2002]
- W8は16ミリ[16ミリ | 11分 | 2006]
- まぜるな[16ミリ(ビデオ版) | 5分 | 2008]
- 九ミリ半でダブル・エイト[9.5mm | 5分 | 2023] * 手回し映写機によるライブ・パフォーマンス
- わか九ミリ半[9.5mm | 5分 | 2023] * 手回し映写機によるライブ・パフォーマンス



わか九ミリ半

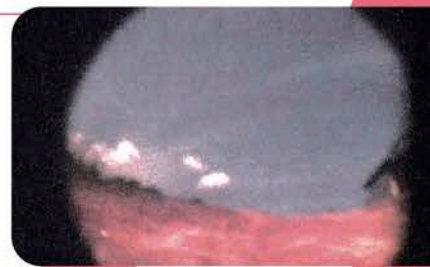
P4 SWING! 奥山順市

展示 Feb. 9/30・10/6 | 13:00・20:00

1998年の東京都写真美術館での個展以来の展示となる「SWING MOVIE」はフィルムインスタレーション/パフォーマンスの先駆け。フィルムの映像が会場中を「スウィング」する！ また、近年奥山が手掛ける「映画発掘計画」の成果として、幻の映画フォーマット、17.5ミリフィルムや、映画発明史の中の失われた存在に光を当てた作品をあわせて展示する。

会場 Feb gallery Tokyo

- SWING MOVIE[ダブル・エイト | 30分 | 1975(展示はデジタル映写)] * 9/30、10/6は15:00よりオリジナルのダブル・エイトでフィルムインスタレーション/パフォーマンスあり
- 17.5mmフィルムの構造[デジタル | 2020 | 4分] * 関連映像とともにマルチスクリーンで展示
- 私家版 LE PRINCE HOP[デジタル | 2023 | 4分(ループで展示)]
- その他、奥山順市秘蔵のレア機材を多数展示！



SWING MOVIE

プログラムL~Pはイメージフォーラムが主催する「日本実験映画データベースプロジェクト」として実施します。

助成——公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京(東京都文化創造発信助成(長期助成))



Q 渋谷階談

■ インスタレーション ■

会場 イメージフォーラム1階ロビー

本作は、映像とその装置(支持体)について、日用品や家具と同じ「モノ」として批評するビデオ・インスタレーションのシリーズの新作である。

前回の「イメージフォーラム・フェスティバル2022」では、型落ちで低解像度となった液晶ビデオモニターを、情報や物語を配達する容器(キャリア)に喩えるビデオ彫刻「入れ物についての考察」を発表した。今回はそれをサイトスペシフィックに展開する。

●渋谷階談[伊藤隆介 | ミクストメディア | 2023]



オン・スクリーンLIVE

LIVE1

オン・スクリーンLIVE——1 「Music as film」 Realtime voice-over and remix

GI 9/30 | 18:30

21世紀の活弁。声と字幕で綴られる映画偽史映画「Music as film」のサウンドトラックを、リアルタイムでリミックスし、ヴォイス・パフォーマンスを重ねる至芸。2020年早春、ロックダウン直前のベルリンで、スクワット(不法占拠)由来の文化拠点にあるマイクロシアター「LICHTBLICK-KINO」で行われたパフォーマンスの日本初演。

●Music as film[七里圭 | デジタル | 54分 | 2016-2023]

パフォーマンス 足立智美

LIVE2

オン・スクリーンLIVE——2 「心の不思議」ライブ演奏付き上映

●福岡市総合図書館

GI 10/1 | 18:30

妻を殺すかもしれない、という説明不能な脅迫観念に取り憑かれた博士が、精神分析家を雇いセラピーを受ける。フロイトの精神分析の理論をシュルレアリスムとドイツ表現主義的手法で想像力豊かに表現したバブストの傑作を、即興音楽の大上・外山・堺原のライブ演奏付きで上映。

●福岡市総合図書館

●心の不思議[G.W.バブスト | 16ミリ | 95分 | 1926]

パフォーマンス 大上流一[guitar]

●外山明[drums] × 堺原拓人

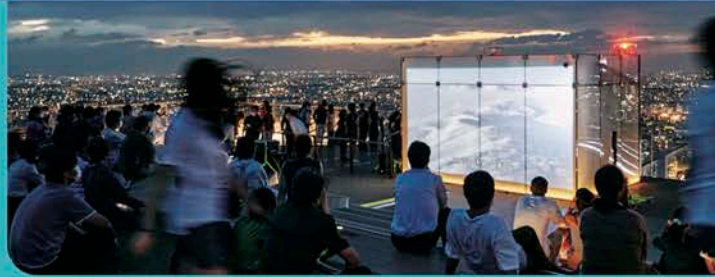
[baritone sax | alto sax]



渋谷上空229mの音楽映画体験

ROOFTOP “LIVE” THEATER

世界の音楽映画を屋上の開放感と大音量で自由に楽しむ屋上上映プログラム。渋谷から映画で世界とつながる。いま見られるべき世界の音楽映画をセレクトし、360度のオープンエアの空間を自由に楽しむ上映イベントを今年も開催。イメージフォーラム・フェスティバルとSHIBUYA SKYが音楽映画の新たな楽しみ方を提示します。



SKY1

ROOFTOP “LIVE” THEATER——1 プリング・ミンヨー・バック!

●民謡クルセイダースメンバーによるライブあり

SKY 10/5 | 19:30



失われた音楽「民謡」を人々に取り戻すため、クンビア・ラテン・アフロ・レゲエなど様々な音楽のエッセンスを取り入れて生まれ変わらせるバンド、民謡クルセイダースに着したドキュメンタリー。

東京・福生を拠点に活動するバンド、民謡クルセイダースはアフロやラテンの要素を取り入れ、民謡をアレンジ、世界中でファンを増やしている。その姿勢に衝撃を受けた監督が彼らに5年間密着。南米コロンビアを含む世界ツアーに

も同行。音楽評論家のインタビューも交え、「民謡とは何か」を探求していく。

●プリング・ミンヨー・バック! [森脇由二 | デジタル | 90分 | 2020 | 日本]

配給 ALFAZBET

SKY2

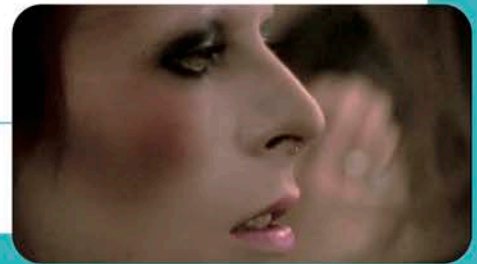
ROOFTOP “LIVE” THEATER——2 ジギー・スターダスト

SKY 10/6 | 19:30

デイヴィッド・ボウイ(1947-2016)の伝説的なライブをドキュメントしたコンサート映画の傑作。異星からやってきたスーパースター“ジギー・スターダスト”の栄光と没落を描くというコンセプトのライブを、ダイレクト・シネマの旗手D.A.ベネベイカーが撮影した、1972年当時の“グラム・ロック”の頂点を捉えた映画史・ロック音楽史に残る音楽ドキュメンタリー。2002年に改めてプロデューサーのトニー・ビスコンティによってサウンドミックスされ、デジタルレストアされた。

●ジギー・スターダスト[D.A.ベネベイカー | 35ミリ(デジタル版) | 90分 | 1973 | イギリス]

●オンリー・ハーツ



SKY3

ROOFTOP “LIVE” THEATER——3 ガリーボーイ

SKY 10/7 | 19:30

インドのスラムで育った青年がラップと出会い人生を変えていく青春音楽映画。インドの大都市ムンバイを舞台に、実在するインドのラッパーたちの人生を描くサクセスストーリーで大勢のインドと日本の映画ファンの心を掴んだ音楽映画の快作を上映。プロデューサーのNASがモデルとなったラッパーたちと共作したエンドロール曲「Mere Gully Mein」も話題となった。

●ガリーボーイ[ゾーヤ・アクタル | デジタル | 154分 | 2018 | インド]

●ツイーン



SKY4

ROOFTOP “LIVE” THEATER——4 ババ・アラエフの音楽王国

SKY 10/8 | 19:30

スチールタンバリンを駆使するタジキスタンの著名な民族音楽一家とその家族内の世代間騒動を描いたドキュメンタリー。

アラエフ一家は50年以上続く音楽一家。東ヨーロッパ、ユダヤ、ロマの音楽を影響の元にタジキスタンで、ソ連崩壊後はイスラエルを拠点に活動してきた。一家を取りまとめるババは文句ないカリスマで独裁的。しかし、時代が変わるにつれて独立した考えを持つ娘らとの世代間の衝突もあらわになってくる。彼らの音楽活動はどのように続くのか? 一家の変遷を追いかけるドキュメンタリー。

●ババ・アラエフの音楽王国[タル・バルダノーム・ピンチャス | デジタル | 74分 | 2016 | イスラエル/フランス]



37th IMAGE FORUM FESTIVAL

イメージフォーラム・フェスティバル2023.....ギャザリング・クラウド

時代が大きく変転し、世界の映画づくりの状況も変わっている。自然災害や技術革新と、それに伴う社会・政治の変化。その影響で自由な映画作りが困難になり、海外あるいはアンダーグラウンドに身を移すことを余儀なくされている作家たちもいる。しかし、姿形を変えながら制作・上映を続けることで、作品と観客が新たに出会う可能性も生み出す。周縁に追われたものたちは雲のように離合集散し、地下に流れる水脈で繋がりがあふれ、映画を革新する力が育っていく。イメージフォーラム・フェスティバル2023では、そうした作品たちの最新状況を紹介する「ギャザリング・クラウド」を開催する。

	9/30[SAT]	10/1[SUN]	10/2[MON]	10/3[TUE]	10/4[WED]	10/5[THU]	10/6[FRI]	10/7[SAT]	10/8[SUN]
シアター・イメージフォーラム IF									
13:00	A 東アジアコンペ1 [85分]	D 東アジアコンペ4 [85分]	I ₁ 香港1 [77分]	I ₂ 香港2 [86分]	P ₂ 奥山順市2 [80分]	M ₁ 賞権のフレーム [87分]	N マイケル・スノウ追悼 [180分]	-	-
15:30	B 東アジアコンペ2 [80分]	E 東アジアコンペ5 [79分]	K 日常の異質2 [60分]	L 動きの言語学 [61分]	D 東アジアコンペ4 [85分]	C 東アジアコンペ3 [87分]	J 日常の異質1 [60分] +16:30から	-	-
18:30	C 東アジアコンペ3 [87分]	F 東アジアコンペ6 [79分]	M ₂ ワークショップ [90分]	O ₁ フィンランド [72分]	E 東アジアコンペ5 [79分]	A 東アジアコンペ1 [85分]	P ₃ 奥山順市 [70分] +授賞式	-	-
21:00	L 動きの言語学 [61分]	P ₁ 奥山順市1 [70分]	J 日常の異質1 [60分]	M ₁ 賞権のフレーム [87分]	F 東アジアコンペ6 [79分]	B 東アジアコンペ2 [80分]	K 日常の異質2 [60分]	-	-
寺山修司 IF 3F									
15:30	-	-	-	I ₃ シンポジウム [90分]	-	-	-	-	-
18:00	G 東アジアコンペA [12:30~20:00]	G 東アジアコンペA [12:30~20:00]	CF ₁	CF ₂	CF ₃	O ₂ シンポジウム [90分]	-	-	-
ゲートインSTITUTE東京 GI									
11:00	H ₁ クラウド1 [108分]	H ₃ クラウド3 [74分]	H ₂ クラウド2 [81分]	-	-	-	-	-	-
13:30	H ₂ クラウド2 [81分]	H ₁ クラウド1 [108分]	H ₃ クラウド3 [74分]	J シングルス&ワンダース ワークショップ [11:00~19:00]	-	-	-	-	-
15:30	-	-	H ₄ シンポジウム [90分]	-	-	-	-	-	-
18:30	LIVE ₁ [54分]	LIVE ₂ [95分]	-	-	-	-	-	-	-
Feb gallery Tokyo Feb									
13:30-20:00	P ₄ 奥山順市 展示	P ₄ 奥山順市 展示	P ₄ 奥山順市 展示	P ₄ 奥山順市 展示	P ₄ 奥山順市 展示	P ₄ 奥山順市 展示	P ₄ 奥山順市 展示	-	-
SHIBUYA SKY [渋谷スカイ] SKY									
19:30	-	-	-	-	-	SKY ₁ [90分]	SKY ₂ [90分]	SKY ₃ [154分]	SKY ₄ [74分]

クッキング・ウィズ・フィルム・メーカーズ

映画作家と料理と一緒に作って、食べて交流しよう。作家得意の料理を、作家持ち込みの映像を見ながら食べて語り合う。ざっくばらんにここで話したことが作家の新たな作品のインスピレーションになるかも…。料理と映画をcookin'する。

会場 イメージフォーラム3階「寺山修司」 **参加料金** 2,000円(材料費込み) **定員** 15名 *作家との料理に参加するのはスペースの都合上、先着3名までとさせていただきます。
*IFF2023 Webサイトよりお申し込み下さい。

CF₁ クッキング・ウィズ・フィルム・メーカーズ—1
リム・カーワイと肉骨茶クッキング
IF 3F 10/2 | 18:00

「あなたの微笑み」(2022)、「COME & GO カム・アンド・ゴー」(2021)で知られるマレーシア出身の日本映画監督リム・カーワイが、本場の肉骨茶作りを披露! 制作中の最新作「ディス・マジック・モーメント」のラフカットを見つつ、対話する。

CF₂ クッキング・ウィズ・フィルム・メーカーズ—2
イップ・ユック=ユーと香港麵クッキング
IF 3F 10/3 | 18:00

香港の映像・マルチメディアシーンで活躍するマルチメディア・アーティスト、イップ・ユック=ユーは知られざる食通であり喫茶店マニア。変わりゆく香港映像シーンを見つけてきたイップとこれからの行方について語り合う。

CF₃ クッキング・ウィズ・フィルム・メーカーズ—3
遠藤麻衣子とポテトスティッククッキング
IF 3F 10/4 | 18:00

「KUICHISAN」(2011)「TECHNOLOGY」(2016)などで日本のもっともエッジな映像作家として評価される遠藤麻衣子と、ポテトスティックを楽しむ。上映作品は未発表作品?

入場料 [消費税込]

シアター・イメージフォーラム

- 一般1,500円 | 学生800円 | イメージフォーラム会員1,000円
- 前売券=1回券1,200円 | 4回券4,000円
- *全席指定。チケットは上映日の3日前よりシアター・イメージフォーラムのオンラインチケット購入サイト、または劇場窓口で販売します。当日受付は各日10:30より行います。
- *1回券、4回券は上映日の3日前より劇場窓口のみで座席指定券と引き換えができます。
- 住所** 東京都渋谷区渋谷2-10-2

Feb gallery Tokyo

- 一般1,000円 | 学生500円 | イメージフォーラム会員800円
- *前売券1回券、4回券もお使いいただけますが、差額の返金はできません。
- 住所** 東京都港区南青山4-8-25

SHIBUYA SKY [渋谷スカイ]

- 大人(18才以上)WEBチケット2,200円
- *上映イベント当日のSHIBUYA SKY入場チケット、もしくは年間パスポートで上映映画をご覧いただけます。ご購入について詳しくは下記サイトをご覧ください。
<https://www.shibuya-scramble-square.com/sky/ticket/>
- *「WEBチケット」は購入日の4週間先の日付まで販売しています。本イベント分は9月7日(木)より順次販売を開始します。
- *悪天候時、本イベントは中止いたします。予めご了承ください。
- *シアター・イメージフォーラム、ゲート・インSTITUTE東京での上映にはお使いいただけません。

ゲート・インSTITUTE東京

- 一般1,500円 | 学生800円 | イメージフォーラム会員1,000円
- *「オン・スクリーンLIVE」は2,800円均一料金
- *自由席、整理番号制。各日10:30より受付開始。各回15分前に開場いたします。
- *「オン・スクリーンLIVE」を除き、前売券1回券、4回券もお使いいただけます。
- 住所** 東京都港区赤坂7-5-56 ドイツ文化会館内

住所 東京都渋谷区渋谷2-24-12(渋谷駅直結・直上)

イメージフォーラム・フェスティバル2023
—関連企画—
「ジェームス・ベニング特集2023:アメリカ/風景」時間
2023年10月7日(土)~10月13日(金)シアター・イメージフォーラムにて最新作「アレンズワース」(2022)を含む8本を日本初特集上映!!

定員 コピアポア・フィルム+ダグレオ出版
*IFF割引あり(イメージフォーラム・フェスティバル半券の窓口提示で、当日一般料金より200円引き)。

image forum festival 2023
イメージフォーラム・フェスティバル2023事務局
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-10-2
TEL 03-5766-0116
www.imageforumfestival.com

